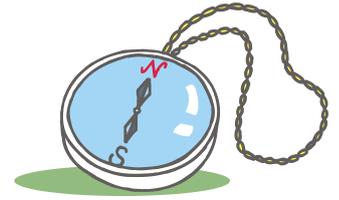


羅 針 盤

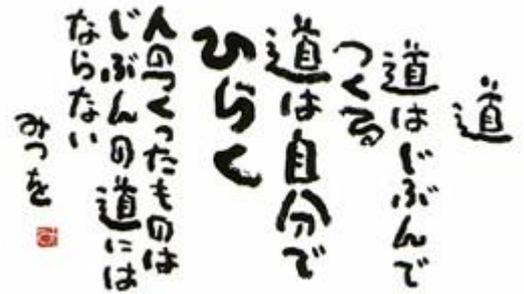


第 **35** 号

令和3年（2021年）2月8日（月）

◆ 「道は自分でつくる」

早いもので、3学期の始業式からもうすでに1か月という月日が過ぎ去ってしまいました。3学期も半ばとなる今、年が明けて「今年こそは」と意気込んで立てた目標を、実行に移すことができた1か月だったでしょうか。3年生の皆さんは、将来の進路を見据えて真剣に考え、悩み、ときには大きな壁に真正面から向き合うといった日々が続いた人もいるかもしれません。「1年の計は元旦にあり、1日の計は朝にあり」と言います。計画を立てるということは、目標を立てるということです。自分が立てた目標を実行に移すこと、ときには並大抵の努力ではおぼつかないようなこともあるかもしれません。「道はじぶんでつくる／道は自分でひらく／人のつくったものはじぶんの道にはならない」これは、詩人として知られる、相田みつをさんの「道」という作品です。皆さんもよく知っている卓球選手の伊藤美誠（いとうみま）さんが、東京都千代田区にある相田みつを記念館を訪れたときに、大きく心に響いた、自分の心境だと感じた作品だそうです。伊藤選手自身が東京オリンピックの出場に向け、世界一を目指し、その夢を実現するための覚悟、そして自らの強い思いを朗読して、紹介もされています。コロナ禍の影響による混迷の時代とも言われていますが、このような時代だからこそこの詩が語りかけてくる言葉の意味を考え、自分の目指すべき志（こころざし）はどこに向かおうとしているのか、迷うことなく進むべき方向を見据えているのか、日々の成長を確認することが何よりも必要であると思います。自分が進むべき「道」を自分自身の力で精一杯に切り拓いていける人であってほしいと願っています。



◆ 移りゆく季節の中で

春夏秋冬（しゅんかしゅうとう）、日本には四季の折々に素晴らしい風景に出会うことができます。立春を過ぎ、季節は冬から春へと少しずつ移りゆくようとしています。皆さんは、四季の他にもう一つ五つ目の季節があるという考え方をご存じでしょうか。「立夏・立秋・立冬・立春」の直前の約18日間ずつ、つまり四つの季節の合間を縫う時期のことを「土用（どよう）」と呼び、その「土用」を五つ目の季節と呼ぶことがあるそうです。



土用があげると新しい季節がはじまります。日本の季節は少しずつ緩やかに移ろいゆくものです。2月に入り、少しずつではありますが季節は春へと向かっています。月末には梅も見ごろとなる時期です。春告鳥（はるつげどり）とも呼ばれる鶯（うぐいす）の鳴き声が山間に響き、春の訪れを感じることができる日が近づいてきています。実際に梅の木にとまる鶯色の鳥はメジロだそうですが、春の到来とともに、梅の花が咲き、鶯の鳴き声が聴ける日が一日でも早く来ることを待ち望む季節となってきました。